

高校新学習指導要領アンケート

平成 25 年から施行される高校新学習指導要領。その特徴として、「授業は英語で行うことを基本とする」「授業科目の統合」などいくつかのポイントが挙げられます。高校教育現場の先生方はこれらの変化についてどのようにお考えなのでしょう。施行までしばらく時間はありますが、そろそろ具体的なカリキュラムを考え始めた先生方も多いことかと思えます。

小社では昨年 7 月に営業員を通じて、全国の先生方に新指導要領に関するアンケートへのご協力をお願い致しました。たくさんのご協力をいただき、誠にありがとうございました。ここでは、集計結果の一部をご報告させていただきます。新カリキュラム作成の参考になりましたら幸いです。

予想される新カリキュラム案

Q. 次のカリキュラムのうち、御校にもっとも適しているのはどちらですか。

①
1年 コミュニケーション英語 I (3 単位) + 英語表現 I (2 単位)



2年 コミュニケーション英語 II (4 単位) + 英語表現 II (4 単位)



3年 コミュニケーション英語 III (4 単位)

②
1年 コミュニケーション英語 I (3 単位) + 英語表現 I (2 単位)



2年 コミュニケーション英語 II (4 単位) + 選択科目 (文法など)



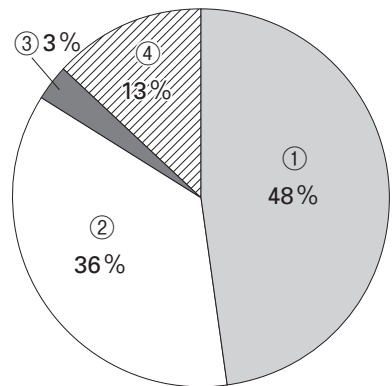
3年 コミュニケーション英語 III (4 単位)

③
1年 コミュニケーション英語基礎 (2 単位) → コミュニケーション英語 I (3 単位)

2年 [] or 英語会話 (2 単位)

3年 []

④
その他



①と②のパターンが圧倒的です。①ではライティングだけではなく高度なレベルでのディベートやディスカッションが求められる発展的な新規科目「英語表現Ⅱ」が含まれますが、約半数の先生が選ばれました。

②では指導要領にない科目でも、選択科目として文法を中心とした授業や実践的な英語が身につく授業をお考えの先生方が多いようです。中学英語との橋渡しのための科目である「コミュニケーション英語基礎」を含む③のパターンをお考えの先生は、この調査では3%に止まりました。

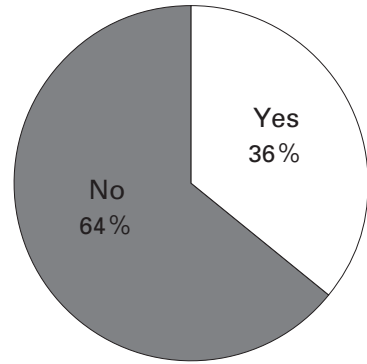
その他、上の3パターンには当てはまらないカリキュラムをお考えの先生もいらっしゃいました。下にその一部をご紹介します。

- 1学年でコミュニケーション英語Ⅰを4単位にする。[3名]
- 1学年でコミュニケーション英語Ⅰを6単位にして、文法・会話等すべてやってしまう。[1名]
- 1学年で基礎を2単位、コミュニケーション英語Ⅰを2単位で、英語表現Ⅰも並行して行う。[1名]
- 1学年ではコミュニケーション英語基礎を2単位、コミュニケーション英語Ⅰを3単位、英語表現Ⅰは2学年で使用。3学年で文法などを選択。[1名]
- 学校設定科目で受験対応のカリキュラムにする。[1名]
- 1学年はコミュニケーション英語基礎を2単位、コミュニケーション英語Ⅰを3単位で、進学コースのみ2学年で英語表現Ⅱを2単位、3学年で学校設定科目を2～4単位。[1名]
- 1学年はコミュニケーション英語基礎を2単位、コミュニケーション英語Ⅰを3単位で、2・3学年でコミュニケーション英語Ⅱを2単位ずつ、2学年で英語会話2単位、3学年で英語表現Ⅰを2単位。[1名]
- 1学年はコミュニケーション英語Ⅰを3単位と英語会話または英語表現Ⅰを2単位、2・3学年でコミュニケーション英語Ⅱを2単位ずつ、2・3学年で選択科目を2～4単位。[1名]

続いて、各科目の選択をお考えの先生方が具体的にどのような授業内容を想定しているかお尋ねしました。

1. コミュニケーション英語基礎

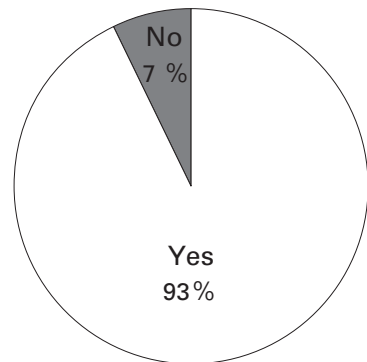
Q. コミュニケーション英語基礎の授業をお考えですか。



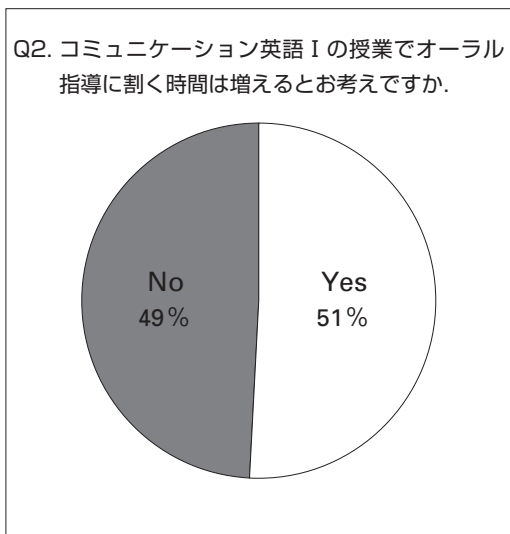
現時点では、「コミュニケーション英語基礎」の授業をお考えの先生方は、3人に1人程度に止まりますが、それでも生徒数にして30万人以上が学ぶ可能性があるわけで、かなりの数に登ります。p.2のグラフでは「コミュニケーション英語基礎」の履修をお考えの先生は少数でしたが、基礎を重視した授業を行いたくても実際はカリキュラムの時間都合上、履修が難しい学校が多いようです。また習熟度が低めの生徒さんが集まる学校で、「基礎」履修を考える先生が多い傾向にあるようです。

2. コミュニケーション英語Ⅰ

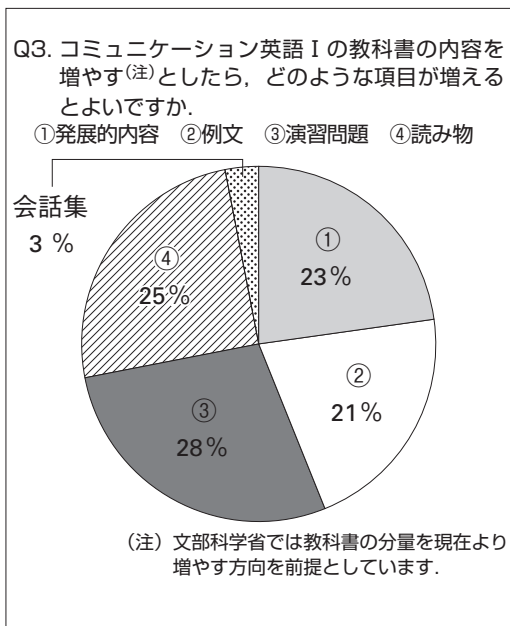
Q1. コミュニケーション英語Ⅰの授業と並行して、文法の参考書などを用いた授業をお考えですか。



新指導要領では、「コミュニケーション英語Ⅰ」だけで文法を一通り終わらせることになっています。1年間で済ませるためには、教科書では各項目とも基本的な事項しか扱えないことになります。そのため、ある程度本格的に文法を扱うには、現課程以上に教科書以外の本が必要になるかもしれません。

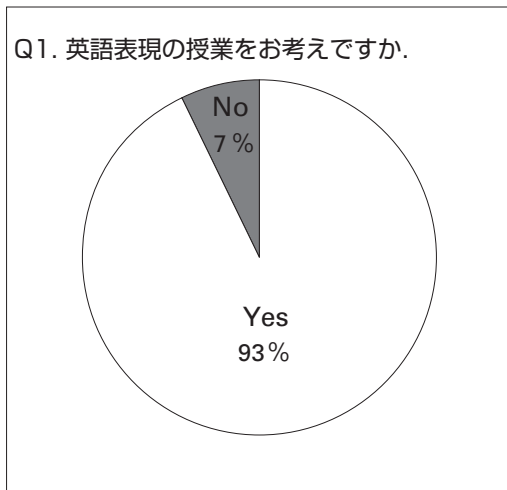


ほぼ半々に意見が分かれています。オーラルと言っても、入試対策のリスニング中心か、実用的な日常会話を目標とするか、ディベートなどを目指すか等によって授業形態は異なってきます。

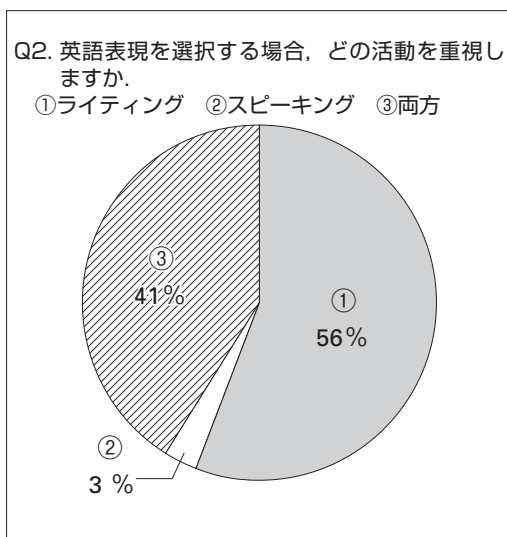


全体でならずと①～④がほぼ均等に並んでいます。生徒さんの習熟度の高低によって、増やすべき内容への要望はまったく異なっています。このうち、習熟度の高い生徒さんが通う学校では「発展的内容」を求める声が、低めの学校では「演習問題」を求める声が圧倒的に多くなっていますが、中位校では非常に複雑な結果となっています。

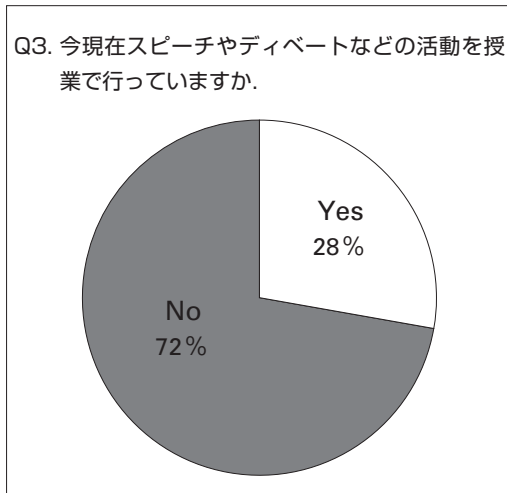
3. 英語表現



現状では圧倒的多数の先生が「英語表現」を履修するとお考えになっています。この数字は、現課程の「オーラルコミュニケーションⅠ」の履修率よりずっと高いものです。ただしp.2の質問にあるように、「Ⅱ」まではやる必要がないとお考えの先生が多いようです。

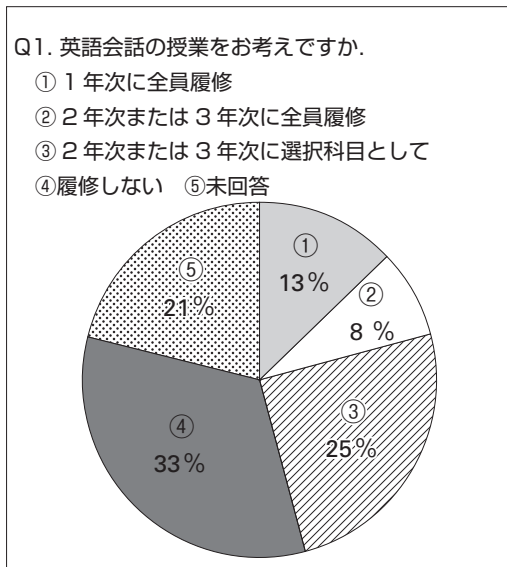


生徒さんの習熟度に関わりなく、ライティング重視(①+③)という声がスピーキング重視(②+③)をずっと上回っています。現行のオーラルコミュニケーションに関するアンケートで、スピーキングとリスニングについて尋ねた際にも、後者への期待が圧倒的でした。スピーキングを重視される先生は少数派のようです。

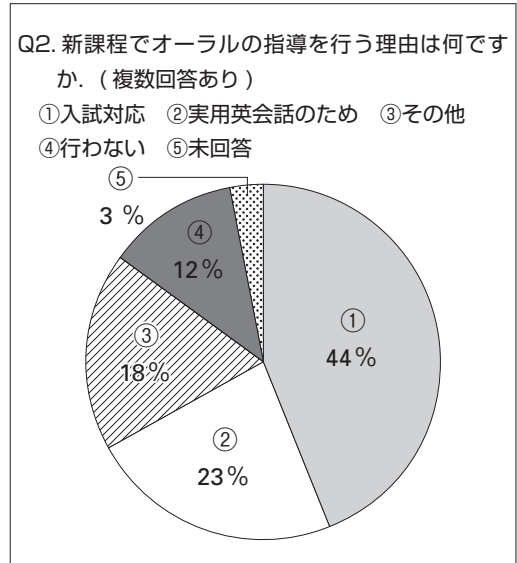


習熟度の低い生徒さんが多い学校では、Yes はほぼゼロでした。その他の学校では3割程度の学校で行われていますが、どこまで本格的なものか、さらに詳しく伺う必要がありそうです。

4. 英語会話



「英語会話」については、全員履修とお考えの先生より、選択科目としてお考えの方のほうがずっと多いようです。ただ、習熟度が低めの生徒さんが多い学校では、1年生で全員履修の比率がかなり高くなっています。



「入試対応」という理由は、習熟度の高めの生徒さんが多い学校では圧倒的です。現在の入試の実態からすれば、このような学校では「リスニング」及び「会話独特の表現」に重点を置いた指導をお考えということでしょう。なお、オーラルの指導を行う①②以外の理由として以下のものが挙がりました。

その他の理由

- 英語に慣れ親しむため
- 音読させたい
- Outputする能力を伸ばすため
- 口語表現も言語の大事な要素であるから
- 英語に慣れ親しむため
- 時代の流れだから

(編集部)